

第 30 回日本医療情報学会中国四国支部セミナー・第 10 回四国医療情報技師会勉強会のご案内

担当:愛媛大学医学部附属病院医療情報部 木村映善

令和 4 年 3 月 31 日に「医療情報システムの安全管理に関するガイドライン 第 5.2 版」が公表されました。5.1 版公表以降の医療情報分野へのサイバー攻撃の多様化、巧妙化が進んだことを受けてセキュリティ面での対応の強化が盛り込まれています。一方で、実際に被害が出ている状況下にどのような対策をすればよいのか、悩んでいる所も多いと思われます。但し、医療機関の状況は様々であり、one-size-fits-all のような解決案はなく、ガイドラインの設計思想の適切な理解を背景として、それぞれの実情にあわせて運用していかねばなりません。そのため、個別の事例や技術の解説ではなく、ガイドラインを医療情報システムの第一線を担っている方々と一緒に解釈、思考実験をする過程を共有し、皆様における医療情報システムの運用方針の振り返りに役立てていただければと思います。

記

日時: 令和 4 年 8 月 20 日 (土) 13:00~17:00

開催方法: Web 開催(Cisco WebEx による Webinar)

申込締切: 令和 4 年 8 月 15 日 (月) 22 時まで

申し込み先: <https://medinfo-chushi2022-seminar.peatix.com/>

共催: 四国医療情報技師会

医療情報技師ポイント : 3 ポイント

医療情報システム監査人補 : 2 ポイント

医用画像情報専門技師 : 8 ポイント

テーマ: 医療情報システム安全管理に関するガイドライン改定への対応

【プログラム】

13:00~13:05 開会あいさつ (木村映善: 愛媛大学)

13:05~13:15 事前アンケート報告 (徳島世話人)

13:15~14:05 特別講演 (須藤 泰史: 半田病院)

14:05~14:15 休憩

- 14：15～15：05 講演（木村映善：愛媛大学）  
「医療情報システムガイドラインの改定に関する解説  
～激化するサイバー攻撃への備えとして何をするか～」
- 15：05～15：50 パネル・ディスカッション  
「医療情報システムは誰が守るのか」（仮題）」  
<パネリスト>
- ・乗松 篤  
(医療法人住友別子病院 情報システム室)
  - ・小谷 裕輔  
(香川大学医学部附属病院 医療情報部)
  - ・北村 和之  
(国立研究開発法人国立がん研究センター中央病院 医療情報部)
  - ・大村 和弘  
(JA 徳島厚生連 阿南医療センター 情報管理課)
- 15：50～16：00 休憩
- 16：00～16：55 総合討論
- 16：55～17：00 閉会挨拶（木村映善：愛媛大学）

<注意事項>

※本セミナーは医療情報技師会の活動の記録として録画いたします。録画したデータは医療情報技師会のみ利用とし、第三者に提供することはありません。

※参加者の皆様が本セミナーを録画することは禁止します。

※本セミナーは参加者様の傾向分布の確認及び総合討論における参考情報とさせて頂くこと 及び 今後の勉強会の運営と内容改善を目的とし、参加者の皆様に「参加申し込みの際」と「セミナー終了後」にアンケートを実施しています。ご登録いただいた個人情報は、上記の利用のみに使用し、第三者に提供することはありません。また、アンケートのご回答内容については匿名化した形で学会発表や勉強会報告に使用させていただく場合があることをご了承ください。ご理解とご協力の程宜しくお願い致します。

<セミナー運営事務局>

愛媛大学大学院医学系研究科医療情報学

連絡先：chushi-medinfo@m.ehime-u.ac.jp

## 第 31 回日本医療情報学会中国四国支部セミナーのご案内

広島大学病院 医療情報部  
三原 直樹

平素よりお世話になっております。

第 31 回日本医療情報学会中国四国支部セミナーのご案内をいたします。

皆様奮ってご参加ください。

今年は 2018 年に成立した次世代医療基盤法の 5 年毎見直しの年にあたります。

ようやくデータ利活用の形が見えつつある中で、先般報道されたような認定事業者の運用  
トラブルも生じ、

現行の利活用が一筋縄ではいかない様相を実感するところでもあります。

また、制度設計の大変さもさることながら、

収集されたデータの利活用も実際にデータをみて研究する段階では様々な困難に直面しま  
す。

これは認定事業者に限った話ではなく、

様々な医療情報データソースを使う上で類似した課題に直面するものと考えられます。

そのため、今回のセミナーでは医療情報データ収集の現状と課題を、特に NDB を中心に取り  
上げ、

データ利活用に向けて実際に手を動かしていく中で見つかる様々な課題を俯瞰します。

制度設計やデータ利活用の方向性を現実的な運用に乗せていく道筋を探るための前提条件  
を炙り出し、

参加者と共有する会としたいと考えております。

### 記

日時: 令和 4 年 12 月 3 日 (土) 13:00~17:00

開催方法: Web 開催による Webinar (会議ツール: CiscoWebex)

テーマ: 「データ利活用の事例とポテンシャル: NDB を例に」

申込締切: 令和 4 年 11 月 28 日 (月)

申し込み先: <https://hpinfo-chushi-seminar2022.peatix.com/view>

参加費：無料（人数把握のため、必ず申込してください）

<本セミナー受講後に取得できるポイント>

医療情報技師ポイント：4ポイント

※セミナー終了後に「医療情報技師ポイント」の受講証明書を発行致します。

（Web イベントへの接続時間がイベント時間の60%以上でないと付与されません）

※同日開催でセミナー時間が重複している複数イベント（Web 開催イベント含む）をご受講の場合は、複数ポイントの加算はできません。

1 イベントのみ登録対象となりますので、ご注意ください。

=====【プログラム】=====

テーマ:「データ利活用の事例とポテンシャル：NDB を例に」

13：00～13：05 プログラム説明

（田中 武志：広島大学病院 医療情報部 助教）

13：05～13：10 開会あいさつ（三原 直樹：広島大学病院 医療情報部 教授）

13：10～13：50 講演1（糸 直人：京都大学大学院医学研究科

EHR 共同研究講座 特定准教授/広島大学病院 インドネシア医療関連共同研究講座 教授）

「次世代医療基盤法等のデータ収集と利活用」

13：50～14：20 講演2（植嶋

大晃：京都大学国際高等教育院附属データ科学イノベーション教育研究センター 特定講師）

「NDB の概要と実際」

14：20～14：45 講演3（松本 彰紘：広島大学病院

インドネシア医療関連共同研究講座 助教）

「心不全のデータ分析の現状と課題」

14：45～14：50 休憩

14：50～15：25 講演4（安藤 文彦：京都大学大学院医学研究科 EHR 共同研究講座

客員研究員)

「NDB データを使うとわかる色々なピットフォールと対策」

15：30～16：25 招待講演（鎌江 伊三夫： 東京大学大学院公共政策学連携研究部 特任教授）

「医療におけるリアルワールドデータの重要性: NDB への期待と論点」

16：25～16：30 休憩

16：30～16：55 総合討論

16：55～17：00 閉会挨拶（三原 直樹：広島大学病院 医療情報部 教授）

=====

<注意事項>

※本セミナーは医療情報技師会の活動の記録として録画いたします。

録画したデータは医療情報技師会のみ利用とし、第三者に提供することはありません。

※参加者の皆様が本セミナーを録画することは禁止します。

※本セミナーは参加者様の傾向分布の確認及び総合討論における参考情報とさせて頂くこと

及び 今後の勉強会の運営と内容改善を目的とし、

参加者の皆様に「参加申し込みの際」と「セミナー終了後」にアンケートを実施しています。

ご登録いただいた個人情報は、上記の利用のみに使用し、第三者に提供することはありません。

また、アンケートのご回答内容については匿名化した形で学会発表や勉強会報告に使用させて頂く場合があることをご了承ください。

<セミナー運営事務局>

広島大学病院 医療情報部

連絡先：hp-info@ml.hiroshima-u.ac.jp<mailto:hp-info@ml.hiroshima-u.ac.jp>